

地域連携を基本とした新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

林 豊彦 歯学博士・工学博士

- 新潟大学・名誉教授
- 新潟市障がい者ITサポートセンター・顧問

山口俊彦 工学修士

- 新潟大学大学院・自然科学研究科・特任講師
- 新潟市障がい者ITサポートセンター・センター長



1. 新潟市障がい者ITサポートセンター 新潟市障がい者ITサポートセンターの沿革 #1

- 2006 新潟市障がい福祉課に対して、新潟市障がい者ITサポートセンター設立の提案
- 2007 新潟市障がい福祉課が当該センターの予算要求
- 2008.5 新潟大学《人間支援科学教育研究センター》が当該センターの受託先として決定
- 2008.10 **新潟市障がい者ITサポートセンター（NITSC）の開設**

- 目的**：1) 支援機器の普及、2) 地域の社会資源の活用による協働支援体制の確立
- 構成員**：センター長 1名（兼任）
支援員 1名（常勤）

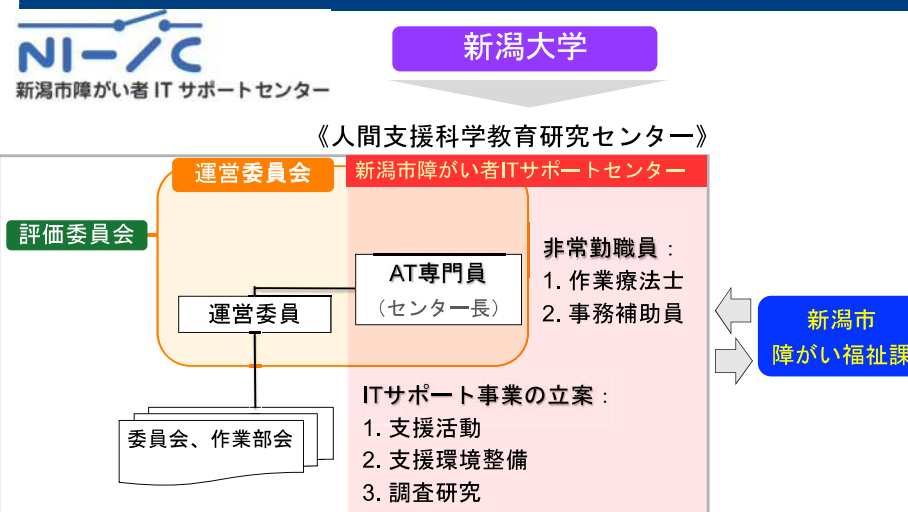


1. 新潟市障がい者ITサポートセンター 新潟市障がい者ITサポートセンターの沿革 #2

- 2009.4 **構成員3名**：センター長 1名（兼任）、AT専門員 1名（常勤）
事務補助員 1名（非常勤）
- 2013.4 **構成員4名**：センター長 1名（兼任）、AT専門員 1名（常勤）
作業療法士 1名（非常勤）、事務補助員 1名（非常勤）
- 2020.4 **構成員4名**：センター長（AT専門員・兼任） 1名（常勤）
作業療法士 1名（非常勤）、事務補助員 1名（非常勤）
顧問 1名（新潟大学・名誉教授）



1. 新潟市障がい者ITサポートセンター 新潟市障がい者ITサポートセンター（NITSC）の組織



2. ICT支援技術の利用状況調査

新潟市の障がい者は支援機器をどのくらい利用しているのか？

限られた社会資源の制約下で、効率的にITサポートするためには！

ICT支援機器の**実際の利用状況**を調査する必要がある。

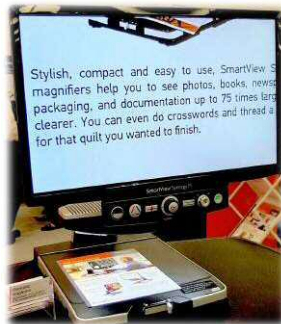
アンケート調査(2008)：

被験者：新潟市の全障がい者（手帳保持者）

配布数： 1,500

回収数： 853 (56.9%)

有効回答数： 799 (53.3%)



2. ICT支援技術の利用状況調査

障害の種別

障害種別	人数 [人]	割合 [%]
視覚障害	41	5.1
聴覚障害	33	4.1
肢体不自由	272	34.0
言語聴覚・嚥下障害	3	0.3
内部障害	97	12.1
身体・不明	29	3.6
知的障害	2	0.2
精神障害	1	0.1

2. ICT支援技術の利用状況調査

アンケート調査

- 肢体不自由者用の典型的なICT支援機器:

1. 環境制御装置
2. オンスクリーン・キーボード
3. 音声認識
4. ヘッドコントロール・マウス
5. 操作スイッチ



- 各機器に対して五者択一の回答:

「知らない」「少し知っている」「知っているが不要」「必要だが未使用」「使用中」

2. ICT支援技術の利用状況調査

結果：肢体不自由（N=272）

機器	知らない	少し知っている	知っているが不要	知っているが未使用	使用中
環境制御装置	91.5%	5.1%	2.2%	0.4%	4.7%
オンスクリーン・キーボード	86.4%	8.5%	4.4%	0.4%	0.4%
音声認識	69.9%	18.4%	11.0%	0.4%	0.4%
ヘッドコントロール・マウス	83.0%	10.7%	5.1%	0.4%	0.7%
操作スイッチ	77.9%	11.4%	7.0%	0.7%	2.9%

➡ 典型的なICT支援機器すらほとんど知られていない (2008)

➡ ICT支援機器は社会的ニーズがまだない

3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

NITSCの活動: 設立初期の活動方針

➡ 典型的なICT支援機器すらほとんど知られていない (2008)

➡ ICT支援機器は社会的ニーズがまだない

NITSCの初期活動方針:

1. 障がい者への個別支援
2. 支援環境の整備



障がい者が必ず利用する特別支援学校と病院 への積極的な介入

3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

障害者基本法の一部改正 (2011年)

障がい者の定義の見直し (改訂・追加)

第二条

一 (拡充) **障害者** 身体障害、知的障害、精神障害その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的制約により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの。

二 (新設) **社会的障壁** 障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における物事、制度、慣行、観念その他一切のものをいう。

3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

障害者基本法の一部改正 (2011年)

差別の禁止 (新設)

第四条 何人も、障害者に対して、障害を理由として差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない。

社会的障壁の除去は、それを必要としている障害者が現に存在し、かつ、その実施に伴う負担が過重でないときは、それを怠ることによって前項の規程に違反することとならないよう、その実施について必要かつ合理的な配慮がされなければならない。

3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

障害者基本法の一部改正 (2011年)

地域社会における共生等 (拡充)

第三条

三 (新設) 全ての障害者は、可能な限り、言語 手話を含む その他の意思疎通のための手段についての選択の機会が確保されるとともに、情報の取得又は利用のための手段についての選択の機会の拡大が図られること。

3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

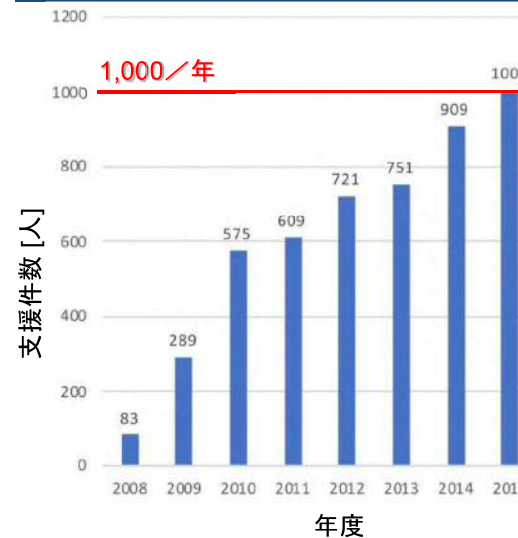
障害者基本法の一部改正（2011年）

情報利用におけるバリアフリー化等（拡充）

第二十二條 国及び地方公共団体は、障害者が円滑に情報を取得し及び利用し、その意思を表示し、並びに他人との意思疎通を図ることができるようにするため、障害者が利用しやすい電子計算機及びその関連装置その他の情報通信機器の普及、電気通信及び放送の役務の利用に関する障害者の利便の増進、障害者に対して情報を提供する施設の整備等が図られるよう必要な施策を講じなければならない。

3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

支援件数の変遷

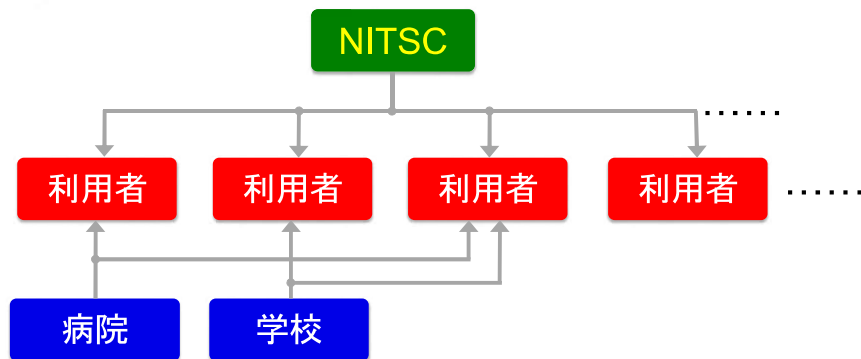


- 学校と病院への積極的な介入による支援件数の着実な増加
- 2015年度、支援件数が1,000人を超え、本センターが対応可能な上限に達した

3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

NITSCの支援モデルの変更

- 従来の支援モデル

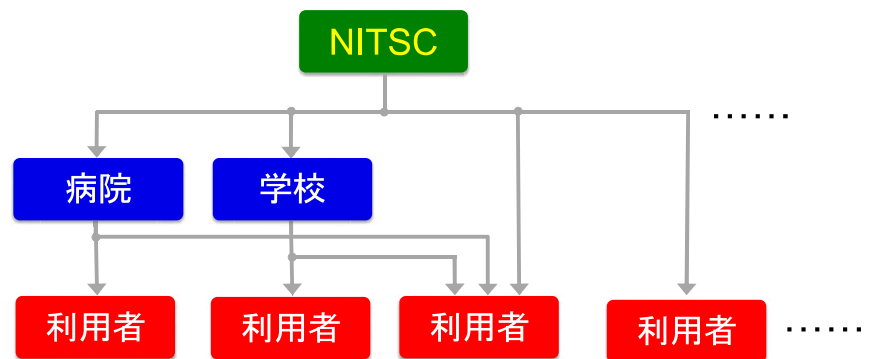


NITSCは個々の利用者を学校や病院と協力して支援してきたが、その支援モデルでは支援件数に上限がある。

3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

NITSCの支援モデルの変更

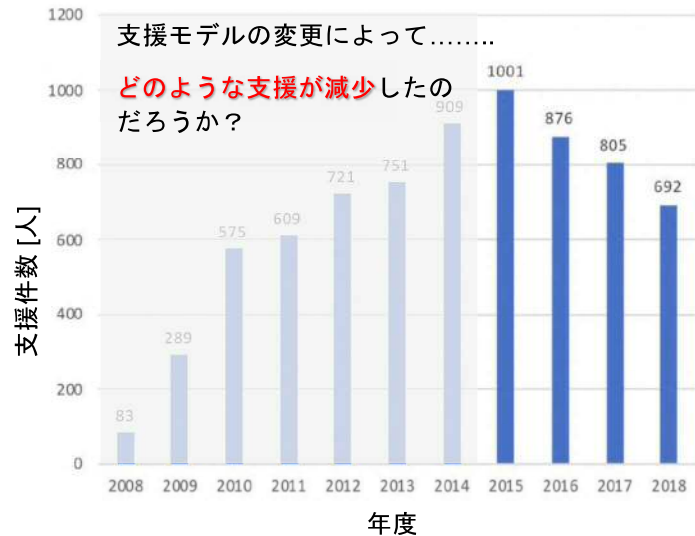
- 階層的支援モデル



NITSCが個々の利用者と同様に学校や病院を支援すれば、間接的に利用者を増やせることができる。

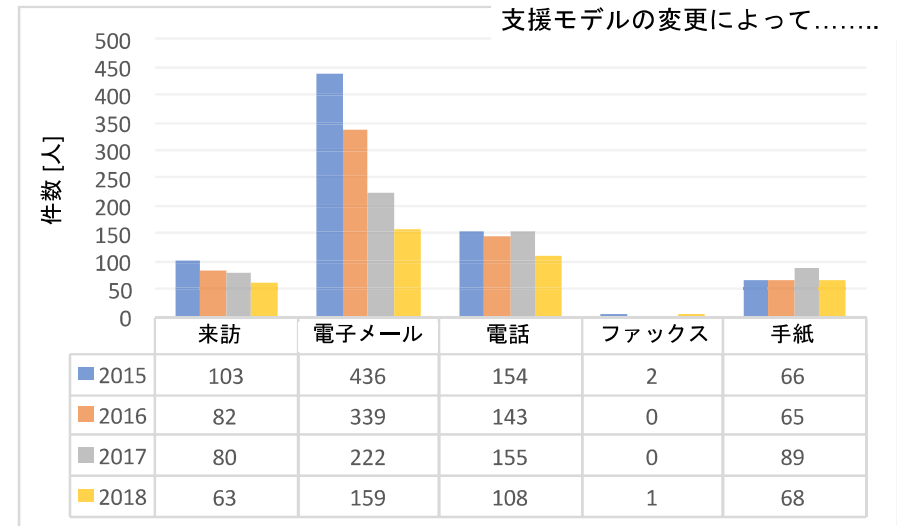
3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

NITSCの支援モデルの変更



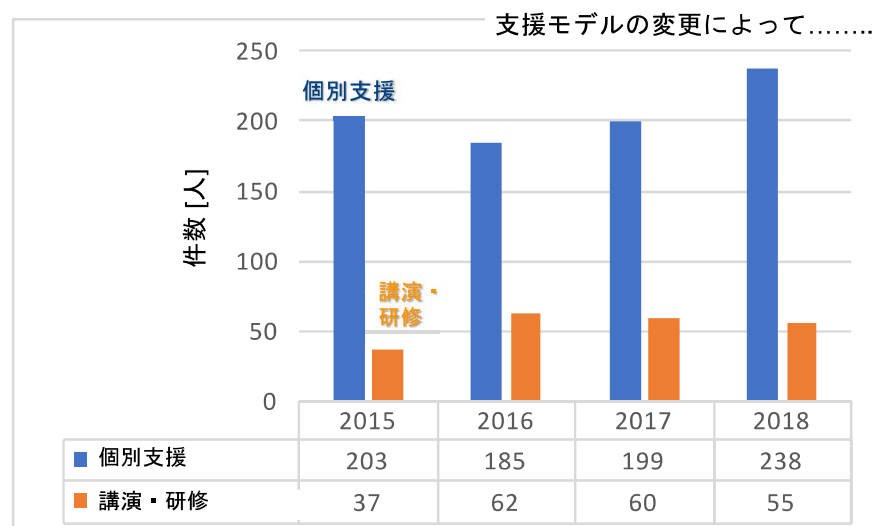
3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

NITSCの支援モデルの変更



3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

NITSCの支援モデルの変更



4. 地域連携が重要

地域協働スキームの確立に向けて

- NITSCの支援ポリシー

利用者に他の専門家（教師、医師、コメディカルなど）と協働しながら、利用者に最良の支援を提供する。

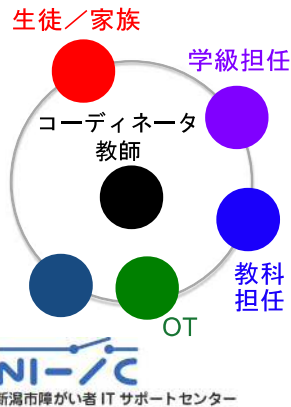
- 他の関係機関との協働

ICT技術による障害者支援は、原則として**学校、病院、訪問看護ステーション、障害者支援団体、教育委員会**などとの協働で行う。



4. 地域連携が重要

特別支援学校との協働

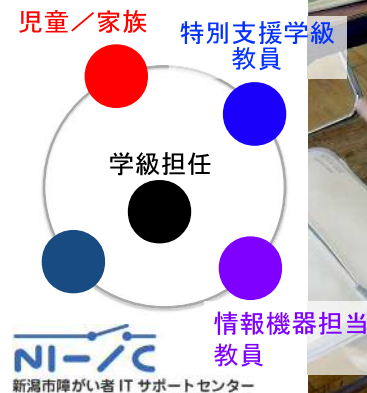


特別支援学校高等部1年生の女子生徒（脳性麻痺）



4. 地域連携が重要

特別支援学校との協働



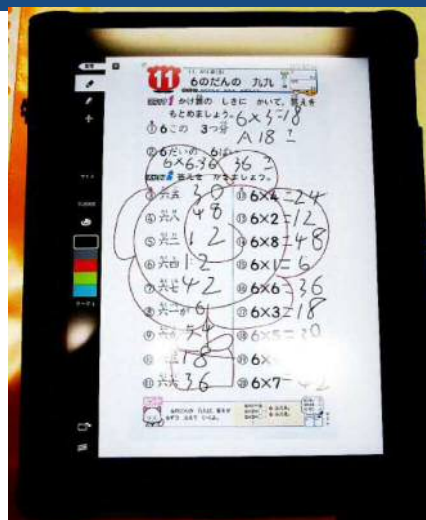
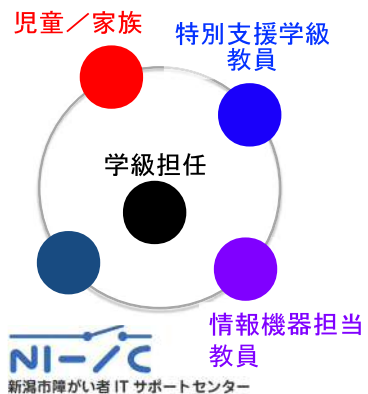
小学校1年生の女子生徒（脳性麻痺）



4. 地域連携が重要

特別支援学校との協働

小学校1年生の女子生徒（脳性麻痺）



iPad^Rを用いた算数と漢字の学習支援

4. 地域連携が重要

コメディカルとの協働

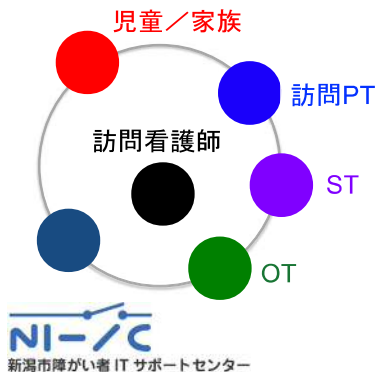
- 利用者：5歳の未就学男児（ウェルドニヒ・ホフマン病）
- 要望：訪問看護師から「ALS患者と同じようにICT技術で支援できないか？」という依頼



4. 地域連携が重要

コメディカルとの協働

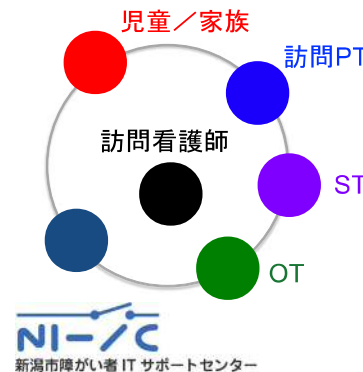
- 利用者：5歳の未就学男児（ウェルドニヒ・ホフマン病）
- 初期の目標：シングルスイッチを使って、ゲームをし、かつコミュニケーション装置を使うこと。



4. 地域連携が重要

コメディカルとの協働

- 利用者：5歳の未就学男児（ウェルドニヒ・ホフマン病）
- 初期の目標：シングルスイッチを使って、ゲームをし、かつコミュニケーション装置を使うこと。



4. 地域連携が重要

特別支援学校と病院との協働

- 利用者：13歳の中学1年生男児（筋疾患）
- 初期の目標：シングルスイッチを用いて意思伝達装置を使い、文字の学習をすること（小学5年時）



4. 地域連携が重要

特別支援学校と病院との協働

- 利用者：13歳の中学1年生男児（筋疾患）
- 現在の目標：スイッチで操作する学習教材の準備



4. 地域連携が重要

特別支援学校との協働

箱プロジェクト：定期的にNITSCが支援している特別支援学校に**基本的なICT支援機器のセット**が入った箱を配布

目的：教師が支援機器を生徒に適用したいと思ったらすぐに使える環境の整備

(NITSCから借用する手続きと時間の削減)



4. 地域連携が重要

特別支援学校との協働

箱プロジェクト：定期的にNITSCが支援している特別支援学校に**基本的なICT支援機器のセット**が入った箱を配布

維持管理：すべての機器の維持管理はNITSCが担当



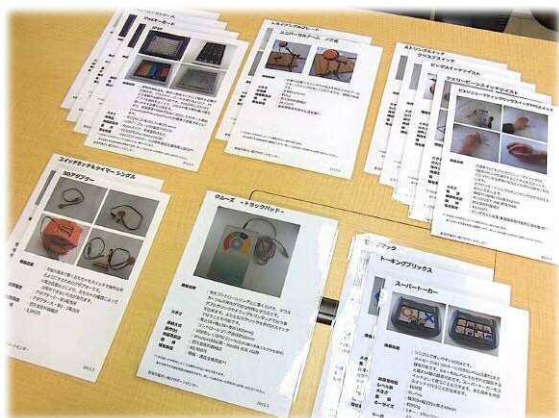
箱内の支援機器

4. 地域連携が重要

特別支援学校との協働

箱プロジェクト：定期的にNITSCが支援している特別支援学校に**基本的なICT支援機器のセット**が入った箱を配布

データシート：各機器の基本情報（仕様、価格、使用法など）



データシート

4. 地域連携が重要

新潟大学医歯学総合病院・ビジョンサポート外来との協働



月1回定期的にビジョンサポート外来で、ロービジョン（弱視）の患者にICT支援機器・アプリケーションの情報提供

4. 地域連携が重要

新潟県視覚障害者福祉協会・新潟大学工学部人間支援感性科学プログラム（旧福祉人間工学科）との協働



新潟大学公開講座として「視覚障がい者のためのパソコン講習」を年2回（各2時間・8回コース）を実施（個別指導）

3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

地域との協働によるNITSCの支援モデル

- 病院・学校・教育委員会との協働

- 病院・学校での講演・研修
- 新潟市教育センターでの教員研修
- 特別支援学校での教員・保護者に対する研修コース

- 新潟県作業療法士会・言語聴覚士会との協働

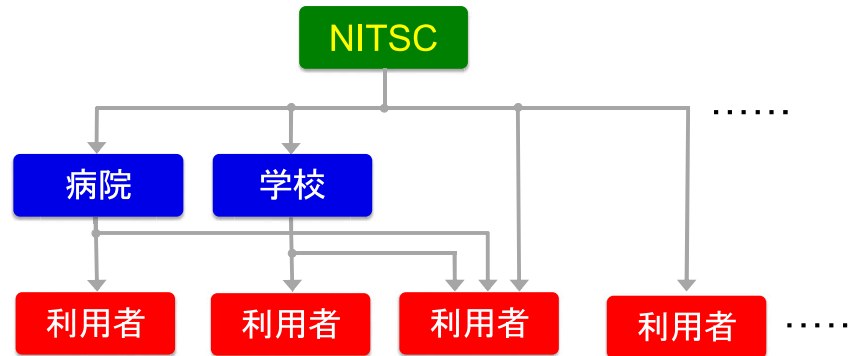
- 関連分野の専門家（コメディカル・社会福祉士・介護福祉士など）に対する障がい者ITサポーター養成講座の定期開催



3. 新潟市障がい者ITサポートセンターの活動

地域との協働によるNITSCの支援モデル

- 階層的支援モデル



NITSCは、ICT支援技術の人的資源を開発し、かつ支援する利用者を増やすために、学校・病院などの関係機関・組織と連携して活動する。